

【バナナ・イエロー】完熟したバナナのような明るい黄色。

財布や手帳などの小物に使われるヴィヴィッドな色の代表色。バナナの皮は“熟度”によって色が変化するので、食べ頃を判断するためのカラーチャートがある。まだ固くて全体が真緑の「オールグリーン」に始まり、熟成の過程に入ったことを示す浅緑の「ライトグリーン」、少し黄色がでてきた「ハーフグリーン」、全体に黄色が強まった「ハーフイエロー」、店頭に並びはじめた頃のネックだけ緑の「グリーンチップ」、そして完熟の「フルイエロー」。色の変化にこれだけこだわる果物は他にない。

●目次／contents

今月のニュース.....2

平成28年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」表彰式
平成28年度「市町村立美術館活性化事業」報告

財団からのお知らせ.....4

平成28・29年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」
愛知セッション開催のお知らせ／ステージラボ高知セッション開催の
お知らせ／「第17回地域伝統芸能まつり」テレビ放映のご案内

今月の情報.....5

地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート.....12

宮城県加美町 中新田バッハホール
バッハホール管弦楽団2017ニューイヤーコンサート

平成28年度
地域創造大賞
(総務大臣賞)
表彰式

平成28年度
市町村立美術館
活性化事業

●地域創造大賞審査委員会

- 委員長
田村孝子(文化ジャーナリスト、公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長)
 - 委員長代理
加藤恒夫(一般社団法人芸術資源マネジメント研究所 代表理事)
 - 委員
板倉敏和(一般財団法人地域創造 理事長)
熊倉純子(東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科 教授)
小林真理(東京大学大学院人文社会系研究科 教授)
坪池栄子(株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー)
仲道郁代(ピアニスト)
柳沢秀行(公益財団法人大原美術館 学芸課長)
吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事(芸術文化プロジェクト室長))
- *五十音順

●平成28年度地域創造大賞(総務大臣賞)表彰式



左:島田三郎総務大臣政務官から表彰を受ける高橋豊砂川市教育長(右から2人目)と其田勝則特定非営利活動法人ゆう理事長
右:出席者記念撮影

平成28年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の表彰式が1月20日、東京・グランドアーク半蔵門にて行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに95施設が表彰され、その活動は広く全国に紹介されています。13回目となる今年度は全国から8施設の受賞が決定し、島田三郎総務大臣政務官ご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である一般財団法人地域創造の板倉敏和理事長の挨拶に続き、表彰状・盾の授与が行われました。また、島田政務官からは、「こうした地域の特色を活かした文化・芸術活動は、地域を活性化するとともに、新たな人の流れをつくりだしており、重要課題である地方創生の実現に大きく貢献していただいていると考えております」(政務官代読)という高市早苗総務大臣の祝辞が披露されました。

受賞施設を代表し、1日の乗降客数250万人超の池袋駅を抱える豊島区において文化創造都市を推進してきた高野之夫区長より、「自治体における文化政策は、住民の生活・福祉・環境・教育・産業・まちづくり等、幅広い生活全般に関わるべきものであり、個別の施策として捉えるのではなく、都市政策あるいは都市デザイン全体に関わる総合的な政策として位置づけることが必要であると考えます。豊島区にお

いても、『国際アート・カルチャー都市』を区の将来像に位置づけ、文化の力で日本のリーダーとなるとの心意気をもって、文化の施策充実に邁進していきたいと思っています。現在、旧庁舎跡地に新ホールを含めた8つの劇場を民間の力を活用しながら整備していますが、その新ホールについても皆様に評価していただけるよう、鋭意努力を重ねてまいりたいと存じます。これまでも、文化施策を横串とし、さまざまな都市における課題に取り組んでまいりましたが、この受賞を契機として、さらに文化を基軸としたまちづくりを推進してまいります」という決意を込めた謝辞をいただきました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、それらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

●平成28年度地域創造大賞(総務大臣賞)受賞施設

- 砂川市地域交流センターゆう[北海道砂川市]
- 八戸ポータルミュージアム(はっち)[青森県八戸市]
- 豊島区立舞台芸術交流センター(あうるすぽっと)[東京都豊島区]
- ミュゼ川崎シンフォニーホール[川崎市]
- 愛知芸術文化センター[愛知県]
- なら100年会館[奈良県奈良市]
- 笠岡市立竹喬美術館[岡山県笠岡市]
- 宗像総合市民センター(宗像ユリックス)[福岡県宗像市]

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●平成28年度「市町村立美術館活性化事業」報告



左：「簡単!リトグラフ体験」(大垣市サイトピアセンター アートギャラリー)/中：「文学座俳優による朗読会『青い鳥』」(市川市芳澤ガーデンギャラリー)/右：「印刷博物館によるカラー印刷&製本体験!」(田原市博物館)

平成28年度市町村立美術館活性化事業「ポール・デルヴォー版画展～幻想のヴィーナスたち～」が、全国3地域で開催されました。17回目となる今回の共同巡回展では、姫路市立美術館の協力のもと、所蔵作品約60点の展示が実現しました。

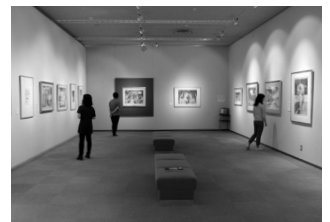
ポール・デルヴォー(1897～1994)は、ベルギーを代表するシュルレアリスムの画家です。古代神殿や駅舎を舞台に、つぶらな瞳の女性たちが、まどろみ、さまよい歩く、まるで白昼夢のような世界は、観るものの心の奥底に強く焼き付く不思議な魅力をもっています。姫路市立美術館はベルギーの近代美術を作品収集の柱としていますが、なかでもデルヴォーは最大のコレクションで、生涯に制作した版画の大半を網羅する約130点を所有しています。今回は、そのなかから厳選した作品を通して、彼の夢幻の世界を各地の多くの方々に楽しんでもいただくとともに、日本とベルギーの外交樹立から150年を数える記念の年に、ベルギー文化への関心を一層高めることに繋がったのではないのでしょうか。

本事業では、地域創造の提示した企画案を、開催各館の学芸員がアドバイザーの助言のもと、学芸会議等で議論を重ねながら具体化していきます。今回は開催3館が協力し、それぞれの得意分野を生かしてアイデアを出し合い、単館開催では得難い充実した内容とすることができました。また、会場掲出パネルや

バナーをはじめ、展示会の魅力を伝える広報印刷物や図録にも力を入れ、デザイナーを立ててトータルにデザインされたクオリティの高いものを実現。ポスターやチラシを各館異なるデザインにしたほか、図録を三方金などの凝った製本にするなど、展示会に対する担当学芸員の意気込みが感じられました。

さらに、この事業の特徴のひとつが、企画内容に即した地域交流プログラムを実施することです。3館共通では、記念講演会やギャラリートークのほか、黄・赤・青の版の掛け合わせによる刷りと、1枚の紙を折って64ページのノートをつくる「印刷博物館によるカラー印刷&製本体験!」、デルヴォーと同じくベルギー出身で同時代に生きた作家メーテルリンクの名作『青い鳥』を文学座俳優が朗読する会を開催しました。単独事業として、大垣市サイトピアセンター アートギャラリーでは、「簡単!リトグラフ体験」を実施し、アルミホイルやコーラなどの身近な日用品を使って、理解しづらい版画技法の原理を実際の制作を通して楽しみながら理解するワークショップを行い、好評を博しました。

なお、平成31年度の共同巡回展の参加館募集開始は、今年6月末を予定しています。地域創造レターおよび当財団ウェブサイトをご確認の上、奮ってご参加ください。



展示会会場風景(大垣市サイトピアセンター アートギャラリー)

●平成28年度市町村立美術館活性化事業「ポール・デルヴォー版画展～幻想のヴィーナスたち～」

[主催]第17回共同巡回展実行委員会ほか

[特別協力]姫路市立美術館

[会場]大垣市サイトピアセンター アートギャラリー(岐阜県大垣市/2016年9月10日～10月16日)、市川市芳澤ガーデンギャラリー(千葉県市川市/10月22日～11月27日)、田原市博物館(愛知県田原市/12月3日～2017年1月22日)

[助成](一財)地域創造

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ

総務部 吉崎・三浦
Tel. 03-5573-4053

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●平成28・29年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」愛知セッション開催のお知らせ

「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」は、都道府県の参加のもと、研修会や域内市町村でアウトリーチ、コンサートなどを実施することで、アウトリーチの手法およびアウトリーチによる事業展開の普及を目指す事業です。

平成28・29年度は愛知県で事業を実施しており、昨年5月に県内市町村の文化担当者やホール職員などを対象としたシンポジウムを開催し、今年2月には3組の派遣アーティストも決定。4月に参加市町村が集まって会議・研修会を行い、いよいよ本格的に事業がスタートします。

参加アーティストがアウトリーチの手法開発を学ぶ研修を行ったのち、愛知県内の6市町(知立市、新城市、豊川市、碧南市、田原市、扶桑町)で小学校などへのアウトリーチやコンサートを行い、2018年2月の参加アーティスト全員によるガラ・コンサート(しらかわホール(名古屋市))まで続きます。

事業の実施を通じて、公共ホール音楽活性化事業で培われたノウハウの蓄積、公共ホールと住民との新たな関係づくりや音楽関係者とのネットワークの構築などが期待されます。

◎平成28・29年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」愛知セッション

【主催】(公財)愛知県文化振興事業団

- ・全体研修会(4月25日/愛知県芸術劇場)
- ・アウトリーチ研修(7月9日～14日/愛知県芸術劇場)
- ・総括公演プログラム(ガラコンサート)
(2018年2月17日/しらかわホール(名古屋市))

◎市町村公演事業

- ・参加市町村
知立市、新城市、豊川市、碧南市、田原市、扶桑町

●ステージラボ高知セッション開催のお知らせ

ステージラボは公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。来年度前期セッションは、高知県立美術館を会場に3コースを予定しています。

詳細および参加者募集については、今後地域創造レターおよび当財団ウェブサイトにてお知らせします。

◎ステージラボ高知セッション概要

【日程】2017年7月4日(火)～7日(金)

【会場】高知県立美術館(高知県高知市高須353-2)

【コース】ホール入門コース/自主事業Ⅰ(音楽)コース/自主事業Ⅱ(舞台芸術)コース

◎高知県立美術館

高知県立美術館は、「高知県の芸術文化の総合的発信基地」となることを目的に1993年に開館して以来、県内唯一の本格的美術館として意欲的な企画展と普及事業を実施しています。(公財)高知県文化財団が運営するホールと美術館の複合施設です。能舞台も設置可能なホール(主舞台使用時399席/プロセニウム形式)を有し、ダンス・現代演劇・映画・音楽などの新しい表現にふれる機会を提供し、総合アートセンターとして県内の文化の向上に貢献されており、平成18年度には地域創造大賞(総務大臣賞)も受賞されています。

美術館ではマルク・シャガール(1,207点)、石元泰博(約3万5,000枚)、表現主義および新表現主義の作品、高知ゆかりの作家の作品を収蔵し、手話通訳、英語通訳を含めたギャラリートーク、移動美術館等の館外事業を行ってきました。2010年より高知パフォーミング・アーツ・フェスティバルを継続して実施。海外アーティストや国内の若手新鋭振付家によるアーティスト・イン・レジデンスも含めた国際共同制作を行い、また音楽や演劇などの出前教室などホール部門においても多数の館外事業などを継続して行っています。

同館でのステージラボは2000年2月以来、18年ぶり2度目の開催となります。

●「第17回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

2月26日(日)にNHKホールで開催される「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「妖(あやかし)」をテーマに、日本各地域の伝統芸能7演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日

2017年3月18日(土) 15:00～16:30

NHK Eテレ「まつりの響き ～第17回地域伝統芸能まつり～」

●公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に関する問い合わせ
芸術環境部 佐藤・水上
Tel. 03-5573-4185

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 宇野・上木
Tel. 03-5573-4066

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 宇野・小川

● 2017年5月号情報締切
3月31日(金)

● 2017年5月号掲載対象情報
2016年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- 公共ホール等の求人情報
- 公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

● 札幌市

北海道舞台塾実行委員会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5-11 大五ビル3F
Tel. 011-272-0501 市川浩康
<http://hokkaido-butaijyuku.jp/>

北海道舞台塾

『Sparrowwwwwww』～日本の昔話／したきりスズメ～

道民の舞台芸術活動を担う人材育成と、興味・関心をもってもらうことを目的として開催している事業。今年は、コンドルズのメンバーとしても活躍するダンサー・演出家のスズキ拓朗を構成・演出・振付に迎え、ダンスと演劇を融合した「物語のあるダンス」に取り組む。日本の昔話『したきりスズメ』を題材に、ダンス、歌、映像、言葉遊びなどで物語を紡ぐほか、視覚的にも楽しめる仕掛けを盛り込んだ舞台となっている。

[日程] 3月17日、18日

[会場] かでる2・7ホール

● 札幌市

札幌芸術の森美術館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森2-75

Tel. 011-591-0090 佐藤弥生
<https://artpark.or.jp/>

札幌美術館

柿崎照一森の奥底一

北海道留萌市生まれ、北海道の現代美術をリードしてきた柿崎照一(1946～)の回顧展。人間の存在をテーマとした野心的な初期の平面、立体作品から、葉や実、種子、貝殻、羽根など自然のなかにみられる造形を連想させる不思議なかたちを壁や床にリズムカルに配置する代表的なシリーズ「林縁から」まで約60点を一堂に展示し、今なお深化を続ける柿崎芸術に迫る。

[日程] 1月28日～3月26日

[会場] 札幌芸術の森美術館

● 岩手県盛岡市

盛岡劇場

〒020-0873 盛岡市松尾町3-1
Tel. 019-622-2258 吉田一輝
<http://www.mfca.jp/morigeki/>

第6回盛岡劇場「劇団モリオカ市民」公演『あの年の盛岡2011』

地元で活動している劇作家が盛岡をテーマに書き下ろした作品を、市民公募のキャスト・スタッフと地元演劇人約100人でつくり上げる「劇団モリオカ市民」。「あの年の盛岡」シリーズ完結編となる今回は、東日本大震災が発生した年を背景にし、取材した事実を基に舞台化する。報道、支援団体など数え切れないエピソードの中から6人の人物像に焦点を当てた物語となっている。

[日程] 3月4日、5日

[会場] 盛岡劇場



第5回公演『あの年の盛岡1933』

● 岩手県西和賀町

ギンガク実行委員会

〒029-5511 和賀郡西和賀町上野々39地割195-2(銀河ホール内)

Tel. 0197-82-3240 小堀陽平
<https://gingaku.jimdo.com/>

雪の演劇祭2017

全国の学生や若い世代を対象に、西和賀町の温泉旅館に泊まりながら演劇専用ホールの同館で作品制作と成果発表上演を行う2012年に始まった「ギンガク」のメインとなる演劇祭。今回ははかばか(宮城教育大学)、クジラ座(日本大学芸術学部)、犬大丈夫(日本大学芸術学部・早稲田大学)が参加。企画制作や舞台技術のスタッフとしても参

加可能。また当日は美術合宿やデザイン企画、短編アニメーション制作企画の作品発表も行う。
[日程] 3月11日
[会場] 西和賀町文化創造館 銀河ホール



昨年の様子(『新釈 遠野物語』チューリー座 [日大芸術学部ほか])

● 宮城県名取市

名取市文化振興財団

〒981-1224 名取市増田字柳田520
Tel. 022-384-8900 海野広美
<http://bunka.natori.or.jp/>

清水真弓とヨーロッパの音楽家たち Vol.3

南西ドイツ放送交響楽団の首席トロンボーン奏者・清水真弓によるプロジェクト。ヨーロッパを中心に活躍するスローカー・トロンボーン四重奏団が、2014年度からスタートしたシリーズの集大成を彩る。リサイタルでは尚絨学院中学・高校の合唱部も共演。四重奏団によるマスタークラスも実施され、受講生たちの小学校や福祉施設への訪問コンサートと修了演奏会も開催。
[日程] 3月1日～5日
[会場] 名取市文化会館

● 福島県いわき市

いわき芸術文化交流館アリオス
〒970-8026 いわき市平字三崎1-6

Tel. 0246-22-7417 萩原宏紀
<http://iwaki-alios.jp/>

アリオス・バレエシアター2016

下村由理恵版『くるみ割り人形』

バレエダンサー・下村由理恵を講師として迎えたバレエシリーズの3年目。1年目は公募による

市民25人とオリジナル作品『ファンタジー』をつくり上げ、2年目には本格バレエ公演の鑑賞機会を提供した。3年目の今年は集大成として、小学生から高校生までの22人がワークショップを重ね、プロダンサーと共に新たなオリジナル作品をつくり上げる。

[日程] 3月5日

[会場] いわき芸術文化交流館
アリオス



ワークショップの様子(撮影:白土亮次)

関東

●栃木県栃木市

栃木市栃木文化会館
〒328-0035 栃木市旭町12-16
Tel. 0282-23-5678 熊倉るり子
<http://www.tochigi-bunka.jp/>

もうひとつの美術館 ～出前美術館～

「もうひとつの美術館」は、那珂川町の里山に建つ明治・大正の面影を残した旧小口小学校校舎を再利用して2001年に開設。「みんながアーティスト、すべてはアート」をコンセプトに年齢・国籍・障がいの有無などを越えたアートのあり方を提案しており、同館の冬季休館中に行われる出前美術館は今回で3回目。約20点の絵画が展示されるほか、手づくりの小物やグッズの販売なども行われる。

[日程] 2月28日～3月6日

[会場] 栃木文化会館

●群馬県高崎市

高崎市美術館
〒370-0849 高崎市八島町110-27

Tel. 027-324-6125 住田常生
<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014011000353/>

生誕100年 木村忠太展

自らを「魂の印象派」と称し、1953年の渡仏以来、ほとんど帰国することなく30年以上にわたりフランスで描き続けた木村忠太(1917～87)の回顧展。館所蔵作品を中心に、日本初公開を含む油彩やパステル、鉛筆デッサン、リトグラフ95点に、パレット、スケッチブックなどの作家資料を加え、木村が描こうとした“内なる光”を、東洋と西洋、内なるものと外なるものを巡る木村の思考と制作を手がかりとしながら、点描から線描、そして色面へと折々変化する光の表現の中にたどる。

[日程] 1月26日～3月26日

[会場] 高崎市美術館

●埼玉県川口市

川口市教育委員会
〒332-0033 川口市並木元町1-76
Tel. 048-253-0222 秋田美緒
<http://www.atlia.jp/>

アートで解明! 空気の正体

物事の本質をとらえるアートの力によって、謎めいた“空気の正体”に迫る展覧会。空気を身体全身で感じられる展開を目指し、高さ約5メートルの壮大な体験型作品を展示するほか、小学生を対象にした空気に触れながら想像力を膨らませるワークショップも開催する。あいちトリエンナーレで話題を呼んだ大巻伸嗣など国内外で活躍する3名の作家が参加。

[日程] 3月11日～5月14日

[会場] 川口市立アートギャラリー・アトリア

●東京都江東区

江東区文化コミュニティ財団
〒135-0002 江東区住吉2-28-36

Tel. 03-3635-5500 高野裕久
<http://www.kcf.or.jp/tiara/>

東京シティ・バレエ団 バレエとバリ舞踊の饗宴～バリ版:真夏の夜の夢

江東区と芸術連携を結んでいる東京シティ・バレエ団と、バリ島より招いたバリ舞踊家とのコラボレーションバレエを、約1年かけて制作。第1部では、『白鳥の湖』『レゴリラッサム』などの各団体による演目を披露。第2部では、バレエ作品『真夏の夜の夢』を、バリ舞踊と融合させた完全オリジナル版を上演する。

[日程] 3月12日

[会場] ティアラこうとう

●東京都目黒区

目黒区芸術文化振興財団
〒152-0023 目黒区八雲1-1-1
Tel. 03-5701-2913 井上・丸
<http://www.persimmon.or.jp/>

東日本大震災復興支援コンサート

目黒区と友好都市である宮城県気仙沼市出身の音楽家たちによるコンサートを通じて、発生から6年が経過した東日本大震災被災地の現状や復興の歩みを広く周知する。第1部では、気仙沼市民吹奏楽団とヤマハ目黒吹奏楽団による共演。第2部では、気仙沼出身のシンガーソングライターとジャズピアニスト、目黒区立中目黒小学校合唱団によるコンサートが行われる。

[日程] 3月5日

[会場] めぐろパーシモンホール

●東京都荒川区

荒川区芸術文化振興財団
〒116-0002 荒川区荒川7-20-1(町屋文化センター内)
Tel. 03-3802-7111 戸塚あさ美
<http://www.acc-arakawa.jp/>

あらかわ創造舞台芸術祭2017

『能×オペラ 隅田川』

日本文化の能と西洋文化のオペラを日本人の美意識に基づき融

合した作品を創作するプロジェクト。公募により能楽謡隊(65人)とオペラ合唱隊(41人)を結成し、第1部では能楽師と能楽謡隊が、第2部では声楽家とオペラ合唱隊が共演する。第3部では、プロジェクトの集大成として、人形浄瑠璃やオペラに影響を与えた能の演目『隅田川』を能×オペラで初演する。

[日程] 3月20日

[会場] サンパール荒川



あらかわ創造舞台芸術祭2016 能×オペラ『羽衣』(2016年3月) 撮影:海老江重光

●横浜市

横浜能楽堂
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2
Tel. 045-263-3050 遠山香織
<http://ynt.yafjp.org/>

普及公演「バリアフリー能」

より多くの人が気軽に能・狂言が楽しめるようにと始まったシリーズで、今年で16回目の開催。介助者1名無料や点字パンフレット、副音声、上演時字幕配信などのサポートを用意し、毎年、改善を重ねて継続している。今年は、酒をめぐる甥と伯母の駆け引きに注目の狂言『伯母ヶ酒』と、名匠宗近が稲荷明神の助けを借りて剣を打ち上げる場面が見どころの能『小鍛冶』を上演する。

[日程] 3月18日

[会場] 横浜能楽堂

●横浜市

かながわ伝統芸能祭実行委員会
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1(神奈川県立青少年センター舞台芸術課内)

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 045-263-4475 藤岡審也
http://www.pref.kanagawa.jp/div/0230/

かながわ伝統芸能祭 「地芝居2017」

近世以来、庶民の楽しみとして盛んだった「地芝居」の伝統を受け継ぐ県内団体による地芝居(歌舞伎)公演。2002年にスタートし、16回目。今回は、海老名市の大谷芸能保存会歌舞伎部会による『絵本太功記』、横浜市泉区のいずみ歌舞伎保存会が指導した地元小学生による『白浪五人男』に加え、地域の伝統芸能として川崎市で伝承されている乙女文楽による『二人三番叟』が上演される。地芝居の楽しみ方をテーマにしたレクチャー講座も同時開催。

[日程] 3月5日

[会場] 神奈川県立青少年センター

北陸・中部

●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108 長岡市千秋3-1356-6
Tel. 0258-29-7715 殖栗寿史
http://www.nagaoka-caf.or.jp/

市民企画公募型事業 モーツァルト「レクイエム」演奏会

開館20周年を記念して、市民が自主的に企画した地域文化の振興に繋がる質の高い事業を実現する事業のひとつ。本公演では福島章恭(指揮)を招き、今回のために結成した崔文洙(チェムンス)が率いる長岡アマデウス管弦楽団と、福島と小山恵(ピアノ)の指導により練習を重ねた約100人の長岡アマデウス合唱団が、プロの歌手らと共に演ずる。

[日程] 3月5日

[会場] 長岡リリックホール

●新潟県見附市

みつけ市民ギャラリー(ギャラリーみつけ)
〒954-0059 見附市昭和町2-4-1
Tel. 0258-84-7755 小沼智恵利

https://www.gallery-mitsuke.com/

諸橋精光 大型紙芝居・絵本原画展

新潟県長岡市出身であり真言宗豊山派千蔵院住職でもある諸橋は、仏教説話から童話・昔話の大型紙芝居化に20歳代から取り組み、紙芝居や絵本の制作を行う。また、自らが演出・演奏を行う超大型紙芝居上演会を全国的に展開し、紙芝居の振興に力を注いでいる。本展では紙芝居・絵本原画のほか場面に合わせた脚本を掲示するとともに、声優で紙芝居演じ手であった故右手和子の『ごんぎつね』の朗読を会場で流す。

[日程] 3月15日～31日

[会場] ギャラリーみつけ(みつけ市民ギャラリー)

※P11(アーツセンター情報)に施設情報を掲載

●富山県南砺市

富山県文化振興財団
〒939-2513 南砺市利賀村上百瀬48
Tel. 0763-68-2028 野原基志
http://www.togapn.net/

舞台公演「青い鳥」

県内の中高生から参加者を公募し、海外から利賀に集まった演出家と俳優により結成されたインターナショナルSCOTと合同でつくり上げる演劇公演。今回は、イタリアで活躍する演出家マティア・セバスティアンと、ハンガリーなどの外国人俳優たちが参加。国際的な視野をもった子どもたちを育て地域の活性化を図ることを目的に、稽古やワークショップを重ね、公演に臨む。

[日程] 3月26日

[会場] 利賀芸術公園 利賀山房

●福井県福井市

福井県文化振興事業団
〒918-8152 福井市今市町40-1-1

Tel. 0776-38-8288 橋本恭一

https://www.hhf.jp/

ジュニアが輝く! “音楽の森”コンサート2017

「たくさん子どもたちに、弦楽器によるアンサンブルの楽しさ、仲間と音楽をつくり上げる喜びを知ってほしい」との思いから開講されている「福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー」。11年目の今年度は小学4年生から大学生まで17人が受講。アウトリーチ・コンサートや国内外のトップアーティストによるクリニックを実施し、本コンサートで約1年間の成果を披露する。複数のソリストを立てた楽曲を取り上げ、みんなが主役になれるステージづくりを意識している。

[日程] 3月20日

[会場] ハーモニーホールふくい



アウトリーチ・コンサート(エンゼルランドふくい/2016年11月23日)

●岐阜県美濃加茂市

美濃加茂市民ミュージアム
〒505-0004 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1
Tel. 0574-28-1110 和歌由花
http://www.forest.minokamo.gifu.jp/

現代美術レジデンスプログラム 静かなる森の要請 篠原芳子展

現代美術レジデンスプログラムの活動報告展。美濃加茂市民ミュージアムでは開館以来「芸術と自然」をテーマに現代美術作家によるレジデンスプログラムを開催。今年度は自然や生き物に思いを巡らせ、紙や顔料を使った平面や立体作品を制作する作家の篠原芳子が平成28年5月から不定期にみのかも文化の森に

滞在し、作品を制作。7月には市民ボランティアも参加し、屋外での公開制作も実施。

[日程] 2月11日～3月20日

[会場] 美濃加茂市民ミュージアム

●岐阜県可児市

可児市文化芸術振興財団
〒509-0203 可児市下恵土3433-139

Tel. 0574-60-3311 清水佑香子
http://www.kpac.or.jp/

市民参加公演

『MY TOWN可児』

2008年度から続く市民参加プロジェクトで、今年は演劇公演を開催。ソーントン・ワイルダーの名作『わが町』の世界を生かしながら、岐阜県南部に位置する可児の町の生き生きとした物語へと再構成。演出には文学座の森さゆ里をはじめプロのスタッフを新たに迎え、可児に暮らす人々を総勢60人の市民キャストが演じる。

[日程] 3月4日、5日

[会場] 可児市文化創造センターala

●名古屋市

やまのて音楽祭2017実行委員会
〒464-0821 名古屋市千種区末盛通5-6 NAVI本山1F(タカギ内)
Tel. 080-4062-8016 高木康光
http://www.siroyamadagaya.com/yamanote/

やまのて音楽祭2017

歴史的建築物の多く残る千種区城山・覚王山地区の魅力を発信しようと、城山・覚王山地区魅力アップ事業実行委員会が2003年から毎年春に開催してきた音楽祭。今年は15回目の開催となる。市民グループ「ちくさ文化の里づくりの会」が運営。アマチュア演奏家が多数出演する「ふれあいコンサート」、忘れ去られた名古屋の盆踊りを知って体験できる参加企画などユニー

クな企画が16公演行われる。
[日程] 3月14日～5月28日
[会場] 椋山女学園大学附属小学校、千種文化小劇場、城山八幡宮ほか千種区内各所

●愛知県岡崎市

岡崎市シビックセンター
〒444-0813 岡崎市羽根町字貴登野15
Tel. 0564-72-5111 増田龍一
<http://www.civic.okazaki.aichi.jp/>

コロネット音楽大学シリーズ2016 名古屋音楽大学「鍵盤物語～4つの時代の名曲たち～」

音楽大学の学生が企画制作するコンサートを、シビックセンターが支援・サポートするプログラム。今年は、名古屋音楽大学学生有志が「親しみやすい音楽史」をテーマに、バロック時代から現代までのお馴染みの名曲を、2台のピアノ演奏にトークや映像を交えて上演する。

[日程] 3月23日
[会場] 岡崎市シビックセンター

近畿

●滋賀県大津市

びわ湖ホール
〒520-0806 大津市打出浜15-1
Tel. 077-523-7152 古川恵理
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

びわ湖ホールプロデュースオペラ ワーグナー作曲「ラインの黄金」

1998年のホールオープン時から継続しているプロデュースオペラ。4カ年をかけて、ワーグナーの大作オペラ『ニーベルングの指環』4部作を、ミヒャエル・ハンペの演出、芸術監督・沼尻竜典の指揮の下で単独制作。映像などの最新技術を積極的に採用し、キャスティングも国籍やオペラ団体などの組織の枠組みを超えて幅広く選抜。事前レクチャーや指揮者らのプレトークイベント、演出家によるワークショップなど、公演をより楽しむため

の関連企画も多数開催される。
[日程] 3月4日、5日
[会場] 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

●滋賀県高島市

高島市民会館
〒520-1622 高島市今津町中沼1-3-1
Tel. 0740-22-1764 岸田洋
<http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1135589268407/html/common/588ff1c0018.html>

2017たかしま市民音楽祭「響」

平成18年から開催されている、吹奏楽と合唱による音楽祭。第1部の吹奏楽ステージには5団体、第2部の合唱ステージには10団体が参加し、各部とも参加団体や一般参加者との混合編成により、童謡などを含む多彩な演奏や合唱が披露される。フィナーレでは、合唱・吹奏楽合同で『花は咲く』などを演奏する。

[日程] 3月12日
[会場] 高島市民会館

●滋賀県米原市ほか

滋賀県文化振興事業団
〒520-0044 大津市京町4-3-28 滋賀県厚生会館2F
Tel. 077-522-8369 山元喬
<http://www.shiga-bunshin.or.jp/>

おうみ狂言図鑑2017 春公演

「滋賀県アートコラボレーション事業」のひとつとして7回目を迎える企画。事業団と滋賀県内の各市町ホールの担当者がアイデアを出し合い、これまで培ってきた経験やノウハウを活かして毎年、滋賀県を題材にした新作狂言を制作。今年は「甲賀忍者」をテーマに、狂言師・茂山童司が作・演出を務める『ニンジャカジャと大名、そしてちょっとタロウカジャ』を上演。

[日程・会場] 3月4日：滋賀県立文化産業交流会館(米原市)／

5日：みずほ文化センター(彦根市)／12日：東近江市てんびんの里文化学習センター



おうみ狂言図鑑2016年公演『おうみのおかげ』(作：わかぎあふ)

●兵庫県豊岡市

NPO法人コミュニティアートセンタープラッツ
〒668-0031 豊岡市大手町4-5
Tel. 0796-24-3000 居相歩美
<http://platz-npo.com/>

劇団「演劇FACTORY」旗揚げ 公演「土の詩～時の記憶～」

豊岡市民プラザ指定管理者のNPO法人プラッツがプロデュースする初の劇団「演劇FACTORY」。これまで公演ごとにキャストを公募していた演劇事業を伸展し、継続に重きを置き2016年9月に劇団を立ち上げ、高校生から60歳代の市民約40人が集った。本公演では昭和初期・満蒙開拓団・近未来の交差する、地域の題材を元にした劇団オリジナルの舞台を披露する。
[日程] 3月18日、19日
[会場] 豊岡市民プラザ

●兵庫県丹波市

丹波市立植野記念美術館
〒669-3603 丹波市氷上町西中615-4
Tel. 0795-82-5945 徳原多喜雄
<http://www.city.tamba.hyogo.jp/site/bijyutukan/>

常岡幹彦回顧展

兵庫県氷上郡柏原町(現丹波市柏原町)に生まれ、一昨年に亡くなった日本画家・常岡幹彦(1930～2015)の回顧展。生まれ育った丹波を連想させる深い

霧と湿潤な空気感の表現を探索し、晩年は北海道やスイスの山岳を題材とした作品に挑んでいる。本展では、晩年の大作や丹波に遺された作品など約80点を展示し、常岡が得意としたモノトーンの世界だけではなく、色鮮やかな美しい風景など、幅広い画歴の足跡をたどる。

[日程] 1月14日～3月12日
[会場] 丹波市立植野記念美術館

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県立博物館
〒680-0011 鳥取市東町2-124
Tel. 0857-26-8042 赤井あずみ
<http://site5.tori-info.co.jp/p/museum/>

ミュージアムとの創造的対話 01 Monument/Document 誰が記憶を所有するのか?

館内のみならず館外の空間をも活用して国内外の優れたアーティストによる多様な作品を展示することで、本来的にミュージアムを構成しているコレクションや建築空間、展示/展覧会、アーカイヴといった要素を改めて検証し、その現代的な意味を問い直すことを試みるシリーズ企画展。第1回は「誰が記憶を所有するのか?」という問いから、モニュメントとドキュメントをテーマに白川昌生、中ハシクシゲ、西野達という3名の現代美術作家による展示を行う。

[日程] 2月25日～3月20日
[会場] 鳥取県立博物館ほか

●鳥根県雲南市

雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会
〒699-1311 雲南市木次町里方55
Tel. 0854-42-1155 小林有希子
<http://www.cheriver.com/>

雲南市創作市民演劇第7弾 『異伝ヤマトノオロチ』

2010年から毎年取り組んでいる

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

創作市民劇の7回目公演。佐古和枝の『異伝ヤマトノオロチ』に脚色を加えて再構成され、2012年に初演された舞台作品をリメイクし、島根県内外の高校演劇で知られる亀尾佳宏の脚本・演出で上演する。出演者50人、衣裳や大道具などの裏方スタッフ31人、実行委員16人の市民合計97人の市民ボランティアで制作される。

[日程] 3月18日、19日

[会場] 雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホール



『異伝ヤマトノオロチ』稽古の様子

● 島根県出雲市

出雲市芸術文化振興財団
〒693-0002 出雲市今市町北本町2-1-10
Tel. 0853-21-7580 春木靖志
<http://izumo-zaidan.jp/>

出雲の春音楽祭2017

13回目を迎える音楽祭。1週目はオペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』のハイライト版を上演。2週目は作曲家・平野一郎による、交響曲と神楽を結びつけた連作交響神楽(4部作)が始動し、『第一番〈國引〉』を約250名のオーケストラと合唱で初演する。また日本舞踊とクラシックのコラボレーションによる出雲神話シリーズ3年目の完結編をストラヴィンスキーの『火の鳥』で上演。

[日程] 3月11日、20日

[会場] ビッグハート出雲、出雲市民会館

● 岡山県倉敷市

倉敷市文芸振興財団
〒710-0052 倉敷市美和1-13-33

倉敷市文化交流会館2F

Tel. 086-434-0505

<http://arsk.jp/>

第31回倉敷音楽祭

合併による倉敷市の新市発足20周年を記念して始まった音楽祭。第23回から国内各地との文化交流をテーマに、日本各地の芸能を紹介している。“「倉敷市」50周年”記念の今年はその中から特に人気の高かった演目を中心としたラインナップ。また、初日と2日目で結末が異なる市民参加によるオリジナルミュージカル『KAZEの道』や倉敷市民を中心とした管弦楽団の演奏会など市民制作公演も行われる。

[日程] 3月12日～20日

[会場] 倉敷市芸文館、児島文化センターほか

● 岡山県奈義町

奈義町現代美術館
〒708-1323 勝田郡奈義町豊沢441
Tel. 0868-36-5811 遠山健一郎
<http://www.town.nagi.okayama.jp/moca>

岡山現代彫刻の断片

岡山ゆかりの彫刻家7名の作品から、素材や手法の変化に富み、多様な展開を見せている岡山の現代彫刻を探る。建築家と芸術家が共同制作し、作品と建物が一体化した奈義町現代美術館の空間と彫刻作品が対峙し、表現する世界を楽しむことができる。参加作家が岡山の彫刻や表現について語るトークセッションも開催。

[日程] 1月22日～3月12日

[会場] 奈義町現代美術館

● 広島県廿日市市

はつかいち市民ミュージカル運営委員会
〒738-0014 廿日市市住吉2-2-16 (廿日市市民活動センター内)
Tel. 0829-32-3742 田中深月

<https://hatsukaichi-shimin-musical.jimdo.com/>

はつかいち市民ミュージカル 第18回公演『KA・GU・YA ～宇宙を行く～』

2000年に第1回公演を開催して以来、毎年公演を重ねている市民ミュージカル。毎回オリジナルの演目を上演しており、すべての作品で広島県内で活躍する演出家・みつふじひろあきが脚本・演出・演技指導を手がけている。今回は竹取物語を題材にしたファンタジー作品を上演。子どもから大人までの市民20人が出演するほか、スタッフとしてOBOGや保護者も多く関わっている。

[日程] 3月12日

[会場] はつかいち文化ホールさくらびあ



第17回公演『真夏の夜の夢』

● 山口県岩国市

シンフォニア岩国
〒740-0016 岩国市三笠町1-1-1
Tel. 0827-29-1600 吉中由季
<http://www.sinfonia-iwakuni.com/>

ブラス・フェスタ2017 みんなでミュージッキング

年1回の施設開放イベント「シンフォニア・フェスタ」に合わせて毎年開催されている吹奏楽クリニック。小学生から社会人まで幅広い年齢の参加者が、1～3月の間、パートレッスンや合奏練習を行い、本番ではプロの演奏家である講師と共に成果発表公演を行う。期間中、クリニック参加者による幼稚園や介護施設でのアウトリーチも予定されている。

[日程] 3月25日

[会場] シンフォニア岩国



過去の様子(出張演奏会)

● 徳島県徳島市

「vs東京」実践委員会
〒770-8570 徳島市万代町1-1 (徳島県地方創生推進課内)
Tel. 088-621-2130 加藤貴弘
<http://tisff.info/>

徳島国際短編映画祭2017

徳島が創造・気づきの場へと発展することを目的に、西日本初の本格的な国際短編映画祭として、札幌国際短編映画祭との連携により昨年から始まった。短編映画50本以上を上映するとともに、今年は「映画音楽」に焦点を当て、手塚治虫の『展覧会の絵』(1966)をとくしま記念オーケストラによる演奏で「シネマオーケストラ」として上演する。

[日程] 3月3日～5日

[会場] あわぎんホール

九州・沖縄

● 福岡市

福岡県立美術館
〒810-0001 福岡市中央区天神5-2-1
Tel. 092-715-3551 岡部い
<http://fukuoka-kenbi.jp/>

郷土の美術をみる・しる・まなぶ2017 写真家 片山攝三 肖像写真の軌跡

片山攝三(1914～2005)は、福岡市内の写真館を拠点としながらも、1960年代頃から主に関東圏に住まう著名な文豪や美術家、思想家、学者などの文化人の元を訪れて、各人のアトリエや自宅という創作の現場でそ

の肖像をとらえてきた。本展では、片山が「芸術家の肖像」シリーズとして発表した約150人の文化人の肖像写真を中心に、写真館での活動も併せて紹介し、肖像写真に対する姿勢とその熱意に迫る。

〔日程〕2月4日～3月20日

〔会場〕福岡県立美術館

●福岡県直方市

直方谷尾美術館

〒822-0017 直方市殿町10-35

Tel. 0949-22-0038 中込潤

<http://yumenity.jp/tanio/>

子どもスタッフ直方自慢展

直方谷尾美術館で活躍する小学3年生から中学2年生までの子どもスタッフ13人が、直方の自慢できるところを川柳で綴る絵手紙にし、アートスペース谷尾内の電話ボックスに展示。併せて、これらの絵手紙を大きく描いたビッグフラッグ(225×160cm)を、殿町商店街を会場に制作し、市内の商店街に飾っている。

〔日程〕2016年12月6日～3月26日

〔会場〕アートスペース谷尾ほか



殿町商店街に飾られたビッグフラッグ

●長崎県佐世保市

アルカスSASEBO

〒857-0863 佐世保市三浦町2-3

Tel. 0956-42-1111 塚原絹代

<http://www.arkas.or.jp/>

チェンバー・ソロイスト・佐世保

新たに結成されるアルカスSASEBOオリジナル室内オーケストラの初公演。同オーケスト

ラは、新日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスターの豊嶋泰嗣を音楽監督に迎え、ソリストを中心に編成。今回の公演では、ヴィヴァルディ作曲『四季』を曲ごとにソリストを替えて演奏するほか、武満徹作曲の『ノスタルジア―アンドレイ・タルコフスキーの追憶に―』では豊嶋がソリストとして登場する。

〔日程〕3月5日

〔会場〕アルカスSASEBO

●長崎県小値賀町

おぢか国際音楽祭実行委員会

〒857-4702 北松浦郡小値賀町前方郷3874-2

Tel. 080-6438-7273 神崎和美

<http://ojika.net/>

第16回長崎おぢか国際音楽祭

五島列島の小値賀島・野崎島を舞台に、音楽講習会や島内各地でのコンサートで構成される音楽祭。講習会には青柳晋(ピアノ)をはじめとする一流講師陣を招き、今年は23人が受講予定。最終日には受講生によるコンサートも行われる。30日には「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」のひとつでもある野崎島の旧野首教会にて、講師陣によるプレミアムコンサートが行われる。そのほか、地元の吹奏楽団と受講生が共演する寺院コンサートなども開催。

〔日程〕3月28日～31日

〔会場〕離島開発総合センター、旧野首教会ほか



毎年島の寺院で行われる荘厳な雰囲気の
中でのコンサート

●熊本市

熊本市文化事業協会

〒860-0805 熊本市中央区桜町1-3 (市民会館シアーズホーム夢ホール内)

Tel. 096-355-5235 中村隼人

<http://www.bunkabunka.net/index.html>

2017くまもと高校生演劇祭

今年で5回目の開催となる演劇祭。平田オリザが審査委員長を務め、熊本県内の高校に在籍する生徒の参加団体を対象とし、脚本審査を通過した4作品が第2次審査として上演される。また、特別上演として、昨年開催された「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」で優勝した熊本聾学校手話落語部による『その時僕たちは～熊本地震～』が公演される。

〔日程〕3月30日

〔会場〕熊本県立劇場

●大分県大分市

iichiko総合文化センター

〒870-0029 大分市高砂町2-33

Tel. 097-533-4004 橋本修

<http://www.emo.or.jp/>

OITA BROADWAY MUSICAL THEATER

ブロードウェイミュージカルの楽曲を使用したショートレビュー公演。若林裕治(指揮)、岡崎亮子(歌唱指導)ら、日本のミュージカル界の第一線で活躍している講師を招き、公募で集まった小学1年生から70歳までの81人により全17演目を上演する。演奏は大分にゆかりのある若手演奏家10名で構成される特別オーケストラ。

〔日程〕3月20日

〔会場〕iichiko音の泉ホール

●大分県大分市

ホルトホール大分

〒870-0839 大分市金池南1-5-1

Tel. 097-576-8877 桐野由紀子

<http://www.horutohall-oita.jp/>

豊後FUNAIミュージカル

『ぼくたちは星空のした。義鎮と塩市丸』

2013年のホルトホール大分の開館を記念して公募によって結成した、子どもから大人までさまざまな人々が集う市民ミュージカル劇団の4回目となる公演。今回は藤川ユウマが原作・演出・振付・脚本を手がけ、大友宗麟を題材に、地域の伝統舞踊である鶴崎踊りも採り入れたオリジナルの時代劇ミュージカル作品を上演する。大分市民約50人が出演。

〔日程〕3月19日

〔会場〕ホルトホール大分



稽古の様子

●沖縄県宮古島市

宮古島市文化ホール

〒906-0013 宮古島市平良字下里108-12

Tel. 0980-72-9622 與那覇俊和

<http://www.city.miyakojima.lg.jp/kurashi/syougaiyakusyu/matida-shimegekijyo/>

マティダストリートダンスパフォーマンス2017

開館20周年記念事業として、沖縄県内の学生を対象とした「学生による現代的なリズムダンス公演」を開催する。過去に県内各地で開催された大会成績等を考慮して選定した6チームが出演。プロダンサーによる指導を組み込んだワークショップ「2016ダンスキャンプin宮古島」に参加したチームも成果を発表する。当日は各チームによるストリートダンスショーケースのほかダンスバトルも楽しめる。

〔日程〕3月19日

〔会場〕宮古島市文化ホール(マティダ市民劇場)

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

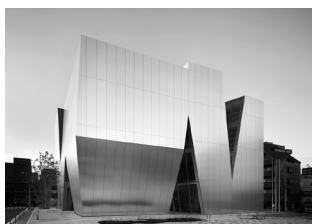
情報担当 宇野・小川
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●東京都墨田区

すみだ北斎美術館

〒130-0014 墨田区亀沢2-7-2
Tel. 03-6658-8931(代表)
<http://hokusai-museum.jp/>

◎2016年11月22日オープン



墨田区で生まれ生涯のほとんどを区内で過ごした葛飾北斎を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、地域の産業や観光へも貢献できる地域活性化の拠点となることを目的として開設。

建物は、大きな1棟ではなく、スリットによりゆるやかに分割されており、外壁に淡い鏡面のアルミパネルを使用することで、やわらかく下町の風景が映り込み、周辺地域の風景に溶け込むよう工夫されている。また自館所蔵作品だけでなく、国内外から作品を借入れ、多様な企画展示を行うために、脆弱な浮世絵作品の保存展示に適した機能・設備を備えている。北斎自身や門人の作品を紹介するだけでなく、区内小学校・中学校などを対象とした出前授業をはじめとするさまざまな普及事業を実施し、北斎とすみだとの関わりなどについて、広く発信していく。

[オープニング事業]北斎の帰還一幻の絵巻と名品コレクション
[施設概要]常設展示室、企画展示室、講座室、ミュージアムショップ、展望ラウンジほか(延床面積:3,278.9m²)

[設置者]墨田区

[管理・運営者]墨田区文化振興財団・丹青社共同企業体

[設計者](株)妹島和世建築設計事務所

●新潟県見附市

みつけ市民ギャラリー/ギャラリーみつけ

〒954-0059 見附市昭和町2-4-1
Tel. 0258-84-7755
<https://www.gallery-mitsuke.com/>

◎2016年3月12日オープン



旧法務局の建物を活用し、誰もが美術にふれることができ、癒しの時間を過ごすことができる市民の新たな憩いの場としてオープン。市内美術家や有識者による委員会を設置して「芸術等を通じた人々の交流促進や情報発信等による賑わいの創出」「評価の高い市民創作活動を年間を通して楽しめる環境づくり」の2点が設置目的として掲げられた。県下でも美術活動が盛んなまちとして評価されていながらも市民が気軽に、継続的に美術とふれることができる場所がなかったため、今後は美術活動や市民交流の促進だけでなく、健幸施策としての観点からも、市民が外出したくなるまちの交流拠点を目指す。

[オープニング事業]池山阿有展、2015年度見附市展受賞作品展

[施設概要]2F展示フロア(357.87m²)、常設展示室(30.60m²)、展示室1・2(41.74・41.46m²)、ぶらっとルーム[美術工作室](31.00m²)、ラウンジ・喫茶コーナー

[設置者]見附市

[管理・運営者]新潟絵屋・新潟ビルサービス共同企業体

[設計者](株)高田建築設計事務所

●名古屋市

昭和文化的小劇場

〒466-0831 名古屋市昭和区花見通1-41-2
Tel. 052-751-6056
https://www.bunka758.or.jp/scd25_top.html

◎2016年12月14日オープン



名古屋市が「市民の身近な文化活動の場」として整備してきた文化小劇場が昭和区にオープンした。整備にあたってはコンセプトなどについて、平成20年から区民と意見交換を重ね、防災公園の中に位置していることから、練習室や楽屋に非常用電源を備えているほか、災害時用の備蓄品を用意しており、防災機能も併せ持った施設となっている。中庭のウッドデッキと繋がり、窓を開けると大きなスペースが生まれる。

今後は地域の子どもたちを中心としたミュージカル劇団の設立や、それぞれの年代がもつ多様なニーズに応える講座・公演を年間通して開催し、市民文化の振興とともに地域の活性化に努めていく

[オープニング事業]区民ふれあい芸術祭、まちの音楽家コンサートほか

[施設概要]ホール(300席+車椅子スペース10)、大練習室(92m²)、小練習室(44m²)

[設置者]名古屋市

[管理・運営者](公財)名古屋市文化振興事業団

[設計者]大建設計(株)名古屋事務所

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

宮城県加美町

中新田バッハホール バッハホール管弦 楽団2017ニューイ ヤーコンサート



上：バッハホール外観／中：ロビーコンサート／下：ニューイヤーコンサート本番。指揮はおんかつでも馴染みの中川賢一

● バッハホール管弦楽団2017ニューイヤーコンサート

【会期】2017年1月22日
【指揮&ピアノ】中川賢一
【コンサートミストレス】澁谷由美子
【曲目】エルガー：威風堂々、J.S.バッハ：主よ、人の望みの喜びよ、ガーシュウィン：ラプソディ・イン・ブルー、J.シュトラウスⅡ：ワルツ《春の声》《美しく青きドナウ》、天野正道：日本の歌メドレーほか
【助成】(公財)カメイ社会教育振興財団、(一財)地域創造

*1 地域経済の再生と少子高齢社会に対応した福祉の向上を図るため加美町が打ち出した地域再生計画。民間音楽教育施設の開校を通じて、産業の振興と新たな雇用の創出、定住人口の増加を目指している。

*2 国立(くにたち)音楽院は東京都世田谷区に本部校舎を置く音楽専門学校。宮城キャンパスは南部校(鳥取県米子市)に続く2つ目の地域キャンパスで、加美町の地域再生計画と連携したモデルケースとして内閣府からも期待されている。

東北新幹線古川駅から車で20分。宮城県の米所に中新田^{なかにいだ}バッハホールが誕生してから、今年で36年になる。1981年に旧中新田町の本間俊太郎町長(後の宮城県知事)がまちづくりの新しいアイデアとしてパイプオルガンを備えた日本初の町営クラシック専用ホールを建設。その後、全国各地に広がった公立の専用ホール・劇場の先駆けとなった。2003年に小野田町、宮崎町と合併して加美町^{かみまち}となったが、当時2万8,000人だった人口がこの10年で4,000人減少。厳しい地域経営が続くなか、11年に就任した猪股洋文町長が15年に内閣府の認定を受けて打ち出した地域再生計画が「音楽と福祉のまちづくり」^{(*)1}だった。その前年に立ち上がった市民オーケストラ「バッハホール管弦楽団」のニューイヤーコンサートを訪れ、新たな取り組みについて取材した。

1月22日、伝説のホールを訪れると、各地にある豪華な施設とは異なる質素な佇まいに驚かされた。開演前から団員が企画したというロビーコンサートが行われ、老若男女で賑わっていた。コンサートを指揮したのは仙台出身の中川賢一、コンサートミストレスは元仙台フィルの澁谷由美子と、仙台のアーティストが全面協力。7歳から70歳代まで53人の市民オーケは中川の弾き振りによる『ラプソディ・イン・ブルー』と競演するなど、結成3年目にもかかわらず、故芥川也寸志が“日本一”と絶賛したホール音響の力も借りて、豊かな音色を響かせていた。

バッハホール・アドバイザーであり、楽団の音楽監督を務める金澤茂は加美町にほど近い鹿島台町(現大崎市)出身。東京交響楽団で首席トロンボーン奏者を務めた後、楽団の経営に携わり、12年からはホクト文化ホール(長野県県民文化会館館長)を務めるなど、豊かな経験をもつ。「地元でオーケストラをつくるのが夢だったので、喜んで引き受けた。アマチュアは楽しく練習することが一番なので、技術の良し悪しで怒ったりはしない。子どもから大人まで、楽器経験や年代を問わず、みんなで音楽を楽しめるよう運営を工夫し、お客さんが何度でも聴きた

いと思ってくれるオケにしたい」と話し、終演後には町長・館長と一緒に、笑顔で来場者一人ひとりにお花をプレゼントしていた。

開館以来、ヴァイオリンやパイプオルガンが学べる音楽教室「バッハホール音楽院」を開講。当初は海外から有名演奏家を招いたコンサートも開かれ、全国から毎日のように視察が来るほど注目されていたが、本間町長が89年に宮城県知事に転出した頃から活動が低迷。

初期から中新田町の職員として関わり、4年前から館長を務める岩崎行輝さんは、「予算的な問題もあり、一時は、自主事業が一ケタにまで減った。しかし、音楽のまちづくりを推進するという方針が確認され、今では年間30本以上の自主事業を行い、全小中学校へのアウトリーチも行い、新たに始めた月1回の入場無料の『サタデーモーニングコンサート(SMC)』にも毎回200人ぐらい集まっている」と話す。ちなみに、SMCを担当しているのは町が地域おこし協力隊として採用した音楽職員2名の内のひとりだ。

猪股町長は、「小学生が書いた『将来、加美町に子どもから大人まで一緒に演奏できるオーケストラがあれば、なんと素敵な町だろう』という作文を読み、この少女の夢を叶えて、“音楽を愛する志が連鎖していく輪をつくりたい”と思い、市民オーケ結成を決意した。今、成人になったこの子もメンバーとして活躍している。『音楽と福祉のまちづくり』第1楽章では、ホールと市民オーケストラを通して、音楽でひとをつくり出してきた。次なる第2楽章では、音楽で仕事をつくり出したい。手始めに今年4月に閉校した小学校をリニューアルした国立音楽院宮城キャンパス^{(*)2}を開校する。工房もあり、楽器製作・修理や音楽療法、リトミックなどを学ぶことができる。音楽を仕事にできる人材を育成し、加美町で仕事をもらい、例えば加美町の木を使った新しい楽器製作など、加美町にこれまでにない新たな音楽産業をつくり出すのが目標だ。そういう連鎖を仕掛けていきたいと思っている」と目を輝かせる。

音楽と地域と経済のこれまでにない出会いを予感させる加美町の取り組みから、目が離せない。(横堀応彦)